



# 経済的困難を抱える子どもへの支援 名護こども食堂 (連携による学習支援ネットワーク構築) 実践報告

# 名護こども食堂の紹介

2016年4月名護市営市場にて  
「こどもいちば食堂」発足

名護市・今帰仁村スクールソーシャルワーカーと  
連携して、支援が必要な

子ども達へ食事・学習・生活支援を実施

現在、名護市・今帰仁村への支援を実施している

対象の子ども達: 不登校・特別支援学級・ネグレクト等



# 当初の目標

大学-民間企業-名護こども食堂-自治体-公立学校協力校からなる  
コンソーシアムを構築する

名護の相対的貧困を減少させる  
学力の向上、こども達の未来の可能性拡大させそれにより、  
自己実現能力/自己肯定感/自己管理ができるようになる。

学生ボランティアにより、憧れとなるロールモデル作りを行う。

自走可能な居場所作りのお手本となる。  
企業参画によりCSR/SDG'sに繋がるよう企業の具体的支援を  
明確化にし、より多くの地域企業が関われる環境を創り上げる



# 実施内容（東京学芸大学との連携）

## ➤実践研究

### ①オンラインによる遠隔支援における指導援助技術開発

東京の学生と名護の学生が協力してこどもの**学習カウンセリング**を行う  
子どもとの関係構築を優先し、こども達の隠れたニーズ（学習方法を意識化）  
子どもが主体的になることを促進する『へ～！』『面白～い！』など驚きを  
伴った発見の場

### ②居場所の地域ネットワーク形成に関する実践研究（プロジェクト）

例) 地域課題解決への取り組み

名護の特産品：シークワサー（ヒラミ檸檬）を使ったスイーツ作り

東京・沖縄で販売予定

# 学習カウンセリングタイム



名護市大浦公民館へオンライン学習支援  
ネット回線貧弱な地域  
学習塾もない  
情動的貧困



東京学芸大の知見を得て  
名護市内より遠隔支援

ファシリテーションも  
地域企業協力の下構築



# 野学プロジェクトタイム

全13回実施



子ども達の中から『？』を引き出し『楽しい』を実践する取り組み  
子ども達に変化が現れた



# この取り組みを通じて学んだ7つの事

- ①地域を巻き込むことの大切さ
- ②福祉的な役割が届いていても救えない現実
- ③孤立しやすい環境が整っていた
- ④心の成長を伴っていかなければならない
- ⑤居場所の役割という考え方が変わる
- ⑥楽しむという感覚が実は一番大切
- ⑦地域課題解決は、大人色を出さない



# 残された課題

- ☆地域をさらに巻き込む。サポーターを増やす必要がある。
- ☆子ども達に問を立たせて、その答え探しの旅をするのが学習支援やプロジェクトその伴奏者が関わる地域の大人達である必要がある
- ☆子ども達の心からやりたい『問』を話し合い、設定して取り組む必要がある

# 今後の対策

- ☆CSや地域の行政の子どもサポーターとのコンタクトをとり連携を推進する
- ☆地域連携を推進する為にも取り組みの理解を企業・団体にお伝えし協力を得る
- ☆子どもたちにとっては“今”がすべて。引き続きPROJECTで楽しみを創り続ける